

番号	パネリストへの質問（事前資料必読）
1	教授先では主にみんなの日本語を使っていますが、時々できる日本語的な授業展開も行っています。なぜ文型説明をしなくても理解できているのでしょうか。
2	那須川先生への質問 (1) 漢字の授業については言及されていませんでしたが、どうされていますか。 (2) インド人学習者の強みは音から学ぶことが得意なこと、多言語話者であること、そのため、学習ストラテジーやコミュニケーションストラテジーに長けていることだと思いますが、それらを生かした実践をされていたら教えてください。
3	SF1は大変優れたテキストだとは思いますが、教える側に相当の力量が求められるような気がします。加納先生がお考えになるSF1を使用するための教師に必要なスキルはどのようなこととお考えになりますか。
4	当社はアプリを作っています。いつもコンテンツ設計をする際、UXの観点から、日本語会話を学ぶ方式について、疑問があります。初学生は、日本語会話の敬語から教えた方が良いのか疑問です。スタディーフロー、シラバスに関して、どのようなお考えがあるのか？皆さんにご意見を聞きたいと思います。
5	中級、N2程度までしかカバーしていない教科書の場合、同じコンセプトの上級、N1までの展開はあり得るのでしょうか。
6	1. 学習者のニーズや学習の仕方が多様化している昨今、特に教室ではなく個人で学ぶ学習者、オンラインでの学習などに対してどのような点で配慮しているか（現在の教材に補足していくべきと考えるか。） 2. ご紹介いただく教科書で学んだあと、学習の成果を評価するとしたら、どのような評価を想定しているか。つまりその教科書を使用したコースの到達度試験としての具体的な評価方法や評価のポイントなど。（教育目標と教育内容と評価は三位一体なので、教育内容（教材）からどのような教育目標を持ち、どのように評価することを期待しているのかをお聞きたい。 3. ご紹介いただく教科書の弱み。
7	質問は別途記入
8	今回のシンポジウムは、基礎から中級（CEFRではB1レベルくらい）までの日本語の教科書の多様性や共通性などについて俯瞰する機会として、とても貴重な機会だと思っております。事前資料を拝見して、以下の二つの質問をパネリストの方にお聞きしたいです。 (1) 教科書の理念について、学習者とその教科書で日本語を学ぶことで、どうなることを目指しているか、学習者を主語にしてざっくり一言で表現するとどうなりますか？ (2) 基礎から中級段階の日本語教科書（今回シンポジウムで扱われる教科書）に期待されることと、中級以降の日本語教科書で期待されることは異なりますか、また基礎から中級とそれ以降の教科書との関連性やつながりについて、どのようにお考えですか。それはなぜですか？
9	場面が学生よりのものが多いが、一般社会人やビジネス場面对応で作る場合は難しさはどのあたりでしょうか。
10	開発された教科書と、CEFRやその他のCan-doリストとの対応についてのお考えをお聞かせいただければ幸いです。
11	加納先生へ 新教材開発の経過報告を興味深く拝読致しました。殊に、初級が終わった時点で、専門の日本語が学べるようにしなければならないという大学生に課せられた使命の重さは、自身の経験からもよく理解できます。同時に、先生も書いていらっしゃるようにこのテキストを学ぶことへの評価についてもう少し言及があればと思いました。会話のストラテジーとして、話題を提示する（前置き表現）、ターン取り、あいづち、婉曲に、また、対話のストラテジーとして感情表現などが果たして初級の段階でどこまでできるものなのか、こうした項目は中・上級になって違和感なく行えるようになるものではないかと思われませんが、初級の段階からそうしたこと（特に日本文化に根ざしたもの）を気づかせていくことの必要性は承知しているものの、特に海外では難しいものでもあります。教科書を使って、どの程度まで教えていけるものか、またその評価はどのように行うべきなのかを質問にさせていただけたらと思います。
12	語彙について 各教科書で扱われている語彙は、どのように抽出されているのでしょうか。 頻度や目的やレベル等において、語彙シラバスの必要性についてお伺いしたいです。 将来の教科書について 今後の日本語教科書のデジタル化について、具体的な可能性をお伺いしたいです。
13	以下の点に興味があります。 ① 課題遂行型の教科書による運用能力養成の限界について ② 用コミュニケーション能力の中でも、社会言語学的能力の指導 宜しくお願ひいたします。
14	4 技能の習得と会話能力の習得のための学習時間の割合と組み立てをどう考えて教科書が作られているかについて、ご意見をうかがいたいと思っています。
15	教科書と日本語能力試験の各レベルとの関連について、どのようにお考えになりますか。 新試験になってから、日本語能力試験の出題基準は出版されておりませんが、教科書を作成するにあたり、日本語能力試験の各レベルを意識されましたか。意識されたとしたら、どう意識し、教科書にはどのように反映させたのでしょうか。 また、N4として出題される「そうだ・らしい・ようだ」の区別や「受身」の様々な用法の理解、自・他動詞の文型や「たばかり／ところ」などの意味の違いなど、学習者にとって難しい項目について、特に工夫された点がありますか。 最後に、教科書が何をどう扱うかによって、今後、日本語能力試験が変わっていく可能性について、ご意見があれば伺いたいと思います。
16	「まるごと」について、理論と実践を大変わかりやすくご紹介いただき、大変勉強になりました。ありがとうございます。 そこで2点ご質問させていただきます。 1点目は学習者へのフィードバックについてです。 シドニーの蜂須賀先生のご報告の最後の、学習者のコメントに、学習者は正確さを気にして、書いたものへのフィードバックが欲しいという声はあるということでした。私も自分の担当するクラス（大学の日本語学科1年生と2年生それぞれの会話クラス）でも同様の反応があるだろうと考えながら読んでおりました。正確さに囚われてコミュニケーションができなくなるとの蜂須賀先生のご指摘も理解できますが、正確さを求めることは、それが「目的」ではなく、学習者にとっての「コミュニケーションができた！」から「それがより正確にできた！」というステップなのだとは私には考えております。 他の日本語学科の教師の多くが（母語話者・非母語話者を問わず）「正しい発音・正しい文法・正しい表現で」「日本人のように」日本語が使えるように、と強調しているのを見て、私は違和感を感じてはいます。ただ、自分が学習者の立場に立つと、その気持ちも理解できるのです。例えば、私自身の中国語能力を考えた場合、B2ぐらいですが、文法の非正確さや表現の稚拙さが気になり、いつまでも同じレベルに留まっている気がします。（自分の努力不足もあります。）やはり外国語学習者としてはその母語話者と見まがわれるような使い手になりたいと思うのは自然なことだと思います。教室は次への段階に導いてくれる大切な場だと思います。 次へつなげる気付きという点で、正確さを目標にはしなくても、それに対するフィードバックはあったほうがいいのかと思うのですが、それは極力しないほうがいいのかのでしょうか。 2点目は、教科書の入手方法についてです。是非台湾でも「まるごと」を授業で使わせていただきたいのですが、台湾の出版社が版權を取って販売されていないので、学習者が手に入れにくいのが現状です。海外での学習者を想定して、というコンセプトですが、他の国では入手しやすい（例えば、一般の書店でも販売されている）のでしょうか。 以上、長々と失礼いたしました。 今後もより効果的な学びの場を作れるように、精進したいと思います。 先生方のご尽力ご活躍に感謝を申し上げます。 どうぞご指導賜りますよう、よろしくお願ひいたします。
17	外国語学習法や第二言語習得についての研究が世界規模で進み、その新しい成果を取り入れ、最新の理念や理論に基づいた日本語教材も、こうしていろいろ出てきている。にもかかわらず、日本語教育においてはいまだに、世界の外国語教育では既に時代遅れとされる「文型シラバス」の教材が圧倒的なシェアを占めている。日本語学習のニーズやその多様性はほとんど考慮されていないようである。この現状の理由は何だと考えるか。 どうすれば変えていくことができるのか。
18	今回取り上げられている教科書は、大学生（留学生）や社会人が対象になっていると思いますが、中等教育段階の学習者に使うことは可能ですか。 また、その際の注意点や工夫の余地などがあれば教えてください。
19	現在は教室で学ぶだけでなく、独学で学ぶ人も増えていると思いますが、教材を開発する側としてできること・やるべきことは何か、お考えがあればお聞かせください。
20	SF1をデジタル教材として展開なさるご予定はございますか。

20	<p>語彙帳やワークシートなどの「周辺教材」について先生方にお尋ねします。 学習者が教科書を使って学び、目指す高みに達するには、優れた「周辺教材」が果たす役割も小さくはないと考えます。そこで、教科書と周辺教材の関係、そして教科書の出版社の役割についてのお考えをお尋ねします。 (田) 周辺教材は、教科書と一体の必要不可欠なもの、とお考えになりますか？ (用) 教科書の執筆者として、周辺教材とはどう向き合ってきたのでしょうか？ (田) 周辺教材の制作・頒布（流通）に関して、出版社はどのような役割を担い、どれほど深く関与するのが望ましいとお考えですか？</p>
21	<p>教科書のシラバスの構造そのものが文型シラバスかCan-doシラバスが教師と学生の力関係とかラポール構築とかに与える影響についてどうお考えが皆さんにお聞きしたいです。 というのも、私は検定に独学で合格して日本語学校に採用されて『みんな日』を使って教えますが、未習語を使うな、媒介語を使うなという点ばかりを強調する風潮に違和感を抱くようになったのです。 文型シラバス+直接法+オーディオリンガル法というオーソドックスとされている教え方は、「教える側の都合」だけでできているのではないかと。そのような教え方では、教師による学生へのマウンティングや差別なども誘発する環境を作ってしまうのではないかとこの疑問が湧いております。 コミュニカティブ・アプローチやCan-doシラバスに関心がありますが学校の指定なので『みんなの日本語』を使わざるを得ない状況にあります。『みんなの日本語』は文法シラバスでありながらも「教え方の手引」に「できるようになること」としてCan-doが記述されていますが、『みんなの日本語』をつかったコミュニカティブ・アプローチの授業のやり方はどのような実践が可能か、具体的なアイデアがあればご教示下さい。</p>
22	<p>八田先生へ 勤務校ではなく他大学の短期日本研修プログラムでまるごとを使用しました。漢字圏JCAT over200レベルのクラスでのまるごと中級の活動はよく動いたのですが、少し簡単だったという受講生からの振り返りがありました。B2レベルのまるごと上級が出る予定はありますか。</p>
23	<p>大野先生にうかがいたいこと 資料の4.2「言葉をめぐる変化」で、「ですます体」と「普通体」について言及されています。「だから、教科書を作る際も、学?たちが失礼な話しかたをしてしまうかもしれない臆病になるより、教科書の?本語が教室外の?本語をよりよく反映するようにして、教室での学びが教室外での?活にすぐ?かせるようにすることのほうが?切だと考えることができると思う。」(p.16)とありますが、もし、「げんき」を作られるとしたら、「ですます体」と「ふつう体」については、どのように扱われるか、もし具体的なアイデアがありましたら、教えていただければ幸いです。</p>
24	<p>教科書を使用した活動のあり方</p>
25	<p>できる日本語準拠の漢字の本「漢字のたまご」シリーズで、中級の早期出版を希望しております。どうかご検討ください。</p>
26	<p>みんなの日本語の名須川先生に質問致します。 (田)絵カードを使う際に語彙を覚えるのみならず、助詞を考えながら言わせるといった方法について、もう少し詳しく教えていただきたいです。 (用)みんなの日本語の指導の中で、漢字についてはどのように扱い、指導されているのでしょうか。</p>
27	<p>質問は別途記入</p>
28	<p>各教科書について、以下のような、開始前準備、文字との関係、副教材利用の割合について、どのようにお考えであるかを比較して考えたいと思っています。よろしくお願ひします。 1) 各教科書を利用する際、授業開始前にどのような準備を行なっていることを想定されているか。想定していないとしたらその理由は何か。 2) 学習に臨む心構えや開始に際して、どのような点をどのような順で説明しておく、最も効果的に教科書が活用できると考えておられるか（個々の現場での利用の話とは別に、制作者の立場で想定されていたお考えを伺いたい）。 3) 文字、漢字学習と教科書との関係をどのように考えておられるか。 4) 各教科書作成にあたって意図していた点のうち、実際の使用において、意図とは異なるが、思いがけず良かった使用方法や効果的な部分があるような報告を受けたことがあるか。（同じく、報告を受けた中で、意図とは反対に、思わぬ盲点等があったなどの報告を受けたことがあるか） 5) 各教科書の作成意図として、どのような評価を想定されていたか。 6) 各教科書の副教材として利用するようなものに、どのようなものがあるとお考えか。（副教材は不要とか、利用するとしても教科書に対して使用の割合が低いなど、何割ぐらいで副教材、または、教師独自の補足の必要性についてお考えであったか）</p>
29	<p>どの教科書も膨大な時間と努力の上に出来上がっているということを改めて実感し、著者の先生方に敬意を覚えました。学校やボランティアグループのような団体の場合、学習者によって使用教材を変えることが難しく、一つの教科書を指針として決めているところが多いです。現在使用している教科書に課題を感じていても、長年使ってきた教科書を変えるのは簡単なことではないと思います。学校やボランティアグループで、教科書を変える場合に、気を付けなければならない点は何のような点だと思われるか。</p>
30	<p>それぞれの教科書で学習を行った結果として、（予想される）日本語能力の変化についてどのような評価が有効だと考えているのか、ご意見かせてください。</p>
31	<p>みんなのほんごで、授業を展開するにあたり文型を「使える」レベルまで引き上げるための効果的な練習方法について、どうすれば日常生活に密着させることができるのか伺いたいです。</p>
32	<p>それぞれのパネリストが自分が携われた教科書に足りないと感じられていること、今後もっとこういう日本語教科書が求められるだろう、というお考えがあれば知りたい。</p>
33	<p>みんなの日本語は副教材も多く使いやすい教材のひとつですが、学習者によっては副教材等を使っても理解できない学生が多々います。今後、新しい副教材を発売する予定はあるのでしょうか？</p>
34	<p>言語教育の変化として、コミュニカティブな授業運営への変化、それに対応した教科書、カリキュラム作りにとりくまれていらっしゃいますが、①実際、こうした指導は現場で現状どれくらい実践されているものですか？ 感覚値で結構ですので、感触を教えてください ②まだまだ受け入れられてない現状がある場合、何が課題でどのようにすればより多くの指導現場で実践されるようになると思われますか ③コミュニカティブな指導を進める中で、どれくらい力がついているかの確認はどのようにされていますか？ どのような形式のもので、評価観点をどのように設定されていますか、もしあるようでしたらご紹介ください。</p>
35	<p>それぞれの教科書を使った授業の中で、共通しているのは学習者が「話す」「書く」といったアウトプットを求められる活動が含まれていることです（ここでのアウトプットは、言語形式の練習のためのそれではなく、作文課題のようにある程度まとまった分量の、書くものや話すものを想定しています）。その際、学習者が「誤用」を生み出すことは不可避です。「まるごと中級（B1）」を使ったご報告の中には、コミュニケーション重視の教材を使った授業を受けた学習者が、全体的に満足しながらも依然として文法的な正確さの確認や訂正を求める声をあげていることが述べられていました。教師が必ず直面する様々な誤用について、各教科書のもとで教える場合にはどう考えればよいのか、また、具体的な訂正や対応はどうあるべきか、お聞かせいただければ幸いです。＊質問の提出が遅くなりまして申し訳ありませんでした。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>

36	「まるごと」 聞く・読む・解釈などの点と、漢字や書くことをどのように結び付けていくのかについての実践例など伺いたい。
37	昨今、教師不足の背景から、経験がない教師も採用しなければならない学校も多く、経験値の低い教師でもすぐに使えるようなドリルの多いテキストを主流にせざるを得ない事情があります。もちろんテキストを離れて発展練習もさせたいし、Can Doも考えて嶋田先生の「できる日本語」なども使いたい。でも教師に力がないと、すぐには使えないテキストを使用するのは不安があるので、どうしても文法積み上げ式の「みんなの日本語」から離れることができません。また、教師養成講座でも「みんなの日本語」を採用してるところが多いので、一番汎用性のある「みんなの日本語」を使用するのが都合がよく、結果、経験もなく力のない先生に合わせて採用テキストを選んでしまう結果となっています。しかし実際のところは、「みんなの日本語」は到達レベルはさほど高くなく、副教材が多い割には文産出を練習するドリルが少なすぎる。経験値の低い教師が、テキストののっているドリルをこなすだけ。これはこのテキストを使って独学したJFL環境の学生と同じぐらいの成果しか望めない。だから産出を含めた難易度の高いドリルやテストは各学校の経験値のたかい教師が自分たちで考えなければならないという面倒くささもあります。「学習者が独学もできるし、片やクラスレッスンでも使える」というところに視点をおくテキストではなくて、国内の日本語学校のクラスレッスンに特化して、教師の経験値に関係なく使用でき、より留学生の産出能力を高められるようなテキストを作ることはできないのでしょうか。
38	当日のお話をお聞きして、ご質問させていただきます。
39	英語には文型が5つしかない、というのに比べ日本語には無数の文型があり、文型を軸に初級を教育するのは、学習者から見て応用が効く方法ではなく、あくまでも、教師側の便宜のために過ぎない。助詞の取扱を筆頭に、英語にはなく日本語にはある言語現象は、初級教科書にとりあげられず、現場の教師の工夫で乗り切っている。江副文法やその教え方などは、英語にはなく日本語にはある言語現象を教育し得ていると思う。各教科書に各教科書のスタイルでその良さを取り入れることはできないか？
40	まるごと 発音指導や作文指導とからめて どのように実践しているのか、具体例が知りたいと思います。
41	・「まるごと」は海外在住の日本語学習者向けの教科書だと伺っているのですが、日本国内の、特に大学・大学院進学を目指している学習者（JLPTや留学試験の受験が必要とされるような）のクラスで使用する場合には、どのような点に注意をすべきでしょうか。 ・「まるごと」上級編刊行のご予定はありますか。
42	当校でも『みんなの日本語初級』を使用している。漢字圏主体のクラスでは1課から50課までを7か月弱で行っている。 非漢字圏の学生を対象としたとき、どのくらいの期間で学習するのが適切と考えていらっしゃるのでしょうか。
43	教科書は市販化された瞬間から、一人歩きし、そして古くなっていくと考えます。したがって、教科書開発者の意図とは異なった使い方がされる例も少なくありません。例えば、「変換練習は決してしないでください」と開発者が主張してもNEJを使用しながらも変換練習をされている方もいるでしょう。また、語彙の意味を学習者が推測することを期待されている『まるごと』のしかるべき箇所、語彙説明を先にされている方もいるでしょう。その現実を教科書開発者の方々がどのように考えられているか、ご回答いただければ幸いです。
44	すみません、今のところはまだございません。
45	海外（特に東南アジア諸国）での日本語教育に興味があります。 『まるごと日本語』の中級以上のレベルの今後の展望、海外での中級以上の授業の様子などが知りたいです。
46	『まるごと』は、課題遂行型の日本語の教科書ということですが、課題遂行とタスクとはどのように異なると考えればよいのでしょうか。
47	『初級日本語 げんき』（大野裕先生）への質問 【質問1】『げんきⅠ』の前半はその課の学習後に話せるようになるトピック（例 第1課：自己紹介）や、コミュニケーションの場面（例 第2課：買い物・注文）が比較的はつきりしていますが、『げんきⅠ』の後半と『げんきⅡ』は、その課で学習する文型を結束するトピック/場面が不明確で、やや文型の寄せ集めの印象を受け、教室活動を考えるときに、難しさを覚えます。この点について、何かお考えがありましたらお聞かせください。 【質問2】『げんきワークブック』には、「会話・文法編」（げんきⅠ・Ⅱ共に）「読み書き編」（Ⅰのみ）に、英語を日本語にする「英和訳」の問題があります。しかし、これらの問題に取り組みせると、日本語を産出するときに、頭の中で英語から日本語に翻訳する癖をつけてしまうように思われ、これまで使用を躊躇してきました。この点について、どのようにお考えになりますか。 【NEJ テーマで学ぶ基礎日本語】（西口光一先生）への質問 【質問1】15週（60時間）の短期留学生に対する日本語指導で6期に渡ってNEJのUnit1-6を使わせていただきました。十分な教育効果が得られましたが、回を重ねるたびに①と②の疑問点、問題点が出てきました。 ①日本で生活する留学生にとっては、NEJを用いて、先生のおっしゃる「社会的コミュニケーション」能力を身につけること他に、「実用的コミュニケーション」能力をも身につける必要があるのではないかと。 ②NEJの自己表現活動中心の指導の中には盛り込めない初級文型がいくつかある。コース終了後に、学習者が他のコース/機関で継続的に日本語を学習する場合、いわゆる「初級文型」が積み上がっていないと、実際問題として、学習の継続が困難になることがある。 そこで、先学期（2017年度春学期）、NEJによる日本語学習の時間に並行して、場面別/機能別の日本語の時間（例：「買い物」の場面での日本語）を設け（①への対策）、その中で、NEJの枠組みの中では提出しにくい文型や語彙などを盛り込む（例：「買い物」の場面で「こ/そ/あ」「いくら」「助教詞」などを導入する）試みをしました（②への対策）。上記①②について、先生から何かコメントがありましたらお聞かせください。 【質問2】各ユニットの終わりに、エッセイを書かせていますが、学習時間の制約もあり、なかなかそれを「自分のものとして再話できるようになる」までに至りません。何か有効な方策がありましたらご教示ください。あるいは、基礎（初級）段階で、一人で長く話す練習をする必要はないのでしょうか。 【質問3】同僚や学習者の中に、「NEJを使った学習では、ある特定のトピックの下でしか話せるようにならないのではないか」という疑問を持つ人がいます。私は各ユニットのテーマを他のテーマに応用することに気づかせれば（例 Unit1「自己紹介」・Unit2「家族の紹介」➡「友達を紹介」、Unit4「わたしの一日」➡「自分の予定や旅程などについて話す」など）、学習者の表現可能な話題を増やすことができるのではないかと考えます。この点について、先生のお考えをお聞かせください。『まるごと 日本のことばと文化』（八田直美先生）への質問 【質問1】短期留学生（3か月間 日本に滞在）に対する日本語指導で、『まるごと入門AI かっどう』を使用しています。トピック7の「まち」やトピック8の「かいも」などが最後のほうに出てきますが、これらは、学習者の日本語レベルに関係なく、来日したその日から日本で生活していく上で必須の内容だと思われます。『まるごと』を、学習者の興味やニーズに応じて、トピックや課の配列を変えて使うことは可能でしょうか。 【質問2】『まるごと中級1』に関する一連の資料を読んで、この教材のコンセプトと教室活動（「スモ」を見ながら「再話」する活動、「ストラテジー」に目を向けさせる活動、「シャドウイング」による発音練習など）に大変興味を持ちました。『まるごと中級1』に流れる教育理念や方策を入門期から取り入れることは可能だとお考えになりますか。
48	教科書作りにおけるジェンダーや、文化的差異をどのようにとらえて作成されていたか、葛藤や配慮などがございましたらお聞きしたいです。 「まるごと」を海外で使った経験があるのですが、学習者から、「もっとJLPT対策になるような授業をして欲しい」という要望を受けたことがあります。また、同僚からも、「まるごとを使うと、学習者は早く自然に話せるようになることはとても良い。しかし、学習者はJLPTに合格したいと思っている。まるごとだけでは、JLPT対策には不安だ」と言われました。
49	JLPTとの兼ね合いでは、「まるごと」はどのような位置づけにあるのでしょうか。ご回答いただけて幸いです。どうぞよろしくお願いたします。
50	日本語学習にはうちよその学習が欠かせないと思いますが、学習事項としての重要性をどのように考えて、教科書への提出を決められているのかお教えください。
51	SFJでは、初級の早い段階から、聴解のプリセッションで丁寧体/普通体の区別を導入するなど、自然会話を教室指導に取り入れるのに注力されています。一方、まるごとでは、A1レベルの初級話者が未知語の聞き飛ばしのストラテジーを使い聴解力を伸ばした事例が報告されていました。現在SFJを授業で使っておりますが、学習時間の制限がある中、ゼロ初級からスピーチレベルの違いを導入するのは詰め込みすぎなのではないかという印象をもつこともあります。教師の力量にかかってくることはと思いますが、自然会話を初級の授業でとり入れることの功罪について先生お二方からご意見を伺えればと思います。

<p>大変面白い企画、ありがとうございます。いろいろ具体的な質問もありますが、教科書を批判的に見る（教科書の限界を知る？）という観点から、以下の二つの質問をさせていただければと思います。</p> <p>それぞれの教科書の理論的背景は様々ですが、大別すると、「学習目標・項目に重きを置いた理論」（CLTやProficiencyなど）と「習得プロセスに重きを置いた理論」（社会文化理論やSLAの多くの理論）に大別できるかと思います。教科書という枠で考えた時に、この二つの違いはかなり重要な違いになってくかと思いますが、実はあまり明確に議論されていないように思います。著者の方はこの違いをどのように捉えているのか、また、教科書作成時に考慮に入れたのか（もしくは入っていないのか）、伺いたいです。</p> <p>それに関連して、会話分析の手法を使った初級教科書の学習目標は何でしょうか。今まで出版された多くの教科書に共通するのは「（言語）能力の育成」（様々な定義・スコープの広さ狭さはあるにせよ）と「能力を個人の所有物として捉える」かだと思います。最近、特にCAを用いたSLA研究で言われているInteractional Competenceは、能力を個人のものとしてでなく、相互作用を行う参加者の間に存在するもの（Young, 2011など）と捉えています（人によって多少捉え方に差がありますが）。その場合、インターアクション能力を個人の持ち物として捉えずに、さらに教室活動・評価活動に落とし込み、そもそも教えること自体がどのようにできるのかどうか、またそのプロセスはどのようなものか、大変気になるところです。かなり大きな質問ですが、このような点について少しでも伺えれば幸いです。</p>
<p>特にどなたへと指定のあるものではありません。とても包括的・意欲的なテーマのシンポジウムで大変興味を持っています。</p> <p>2つの質問があります。</p> <p>1) 歴史的に見ても、日本語教育界における教育観・学習観、それに伴う教授法、教材は変遷を経てきたと思いますし、また現在も常に変わりつつあると思います。そのような中で、日本語教育とは、そしてそこでとられる教授法、教材のあり方というものは、一つの統一的理念・考えのもとに集約されるもの（一つの方向を向いていくもの）でしょうか。あるいは、されるべきでしょうか。</p> <p>あるいは、それに対する答えは、「それは対象者による」「教育環境による」など、異なる考え方ややり方は決して排除しない、というような、ありがちな答えになってしまうのでしょうか。</p> <p>2) ネット環境が広がる中、従来の例えばJSL、JFLというような環境による違いよりも、極端に言えば世界のどこにいたとしても、ネットによる日本語関係の情報にどのくらい接しているかという要素が学習者の学習傾向などに影響を与えているという考えはどうか。このような状況の中で、学習者が「教室」に集まって学ぶことから得られるもの、その価値を、日本語の教室は自ら作り出していく必要があると言えるかもしれません。このことについて、いろいろな先生方のご意見をうかがいたいです。</p>
<p>日本語で仕事や進学ができるようになることを目的とした学習者に対して、「理解してからできるようにする」より「まずできるようにする。そのあとで言語知識を確認する。」という流れのほうが理にかなっているのではないかと、という考えも広がってきています。また、語彙や文法などの「言語知識の正確さ」の重要性が低くなっているように思われます。「多少間違いがあっても、単語を並べるだけでも、コミュニケーションができたほうがいい」という考えと、その一方で「仕事をするとしたら、正確さが求められる」のも事実だと思います。学習者のニーズが多様になっている現在、日本語学校の限られた学習期間での日本語教育はどうあるべきでしょうか。</p> <p>タスク遂行能力を目標とし、プロフィシエンシーを育てる教育における「評価」はどうしたらいいとお考えでしょうか。どのような評価項目が妥当だとお考えでしょうか。また、「やりとり」「長く話す」「読む」「書く」「聞く」などはロールプレイや成果物で評価することができますが、「協調性」「創造力」「問題解決力」などの項目を設定した場合、どんな評価の方法が考えられるでしょうか。ご提案をいただければありがたいです。</p>
<p>55 質問は別途記入致します</p>
<p>56 『できる』『NEJ』『まるごと』が目指すものは、それぞれ用語は違いますが、「言語行動を重視する」「文脈を重視する」「人とつながる」という点で同じところを目指しているという印象を受けました。相違点があれば教えてください。</p> <p>『NEJ』ではモデル会話／モデル文をどのように捉えていますか。また学習者がそれをどのように捉え、自分の発話を構築していったか、具体例などがあれば教えてください。</p>
<p>57 全体への質問です。教科書を作成される際に、登場人物や場面の設定、会話文・例文の設定において、文化的ステレオタイプやジェンダー等のバイアスといった観点から、どのような配慮や工夫をされているのでしょうか。ご参考まで伺えたらと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>58 非漢字圏の学生に対して、どんな使い方が効率がいいと思われるか 漢字・語彙の習得に効果的な教科書の使い方があれば、実例などを交えて教えてください。</p>
<p>「みんなの日本語」：練習Bを口頭で練習させず、別の口頭練習を用意するのはなぜですか。また、オーディオオリジナルメソッドの言語習得観に基づいた口頭ドリルを、今あらためて、どのように評価されますか。</p> <p>「まるごと」：活動編では特に音声インプットを優先するとのことですが、学習者の母語や能力によって日本語の音韻の知覚がうまく行かず、学習が進みにくいというケースはありますでしょうか。もしあった場合、どのような対処をされていますか。</p>
<p>59 「NEJ」：バフチンの言語哲学は現在の言語習得研究の議論の多くを先取りしていたと思いますが、第二言語教育に携わる方々の中には、後者で提出された概念や用語体系のほうが馴染みがあり、議論を進めやすいと感じる向きも多いのではないかと思います。バフチンの哲学と現在の言語習得研究の知見とで重なる部分と重ならない部分について、お考えをお聞かせいただけませんか。</p>
<p>60 八田先生へ 「課題遂行型の学習デザインは、日本語学習をどう変えるか？」について 中級以上の会話学習に興味があります。課題遂行には 「誰かが言ったことの意味を明らかにするよう詳しい説明を人に求めることができる（やりとり）」という能力が必要であると書かれています。実際に学生と会話をしていて、理解をしていないのに うなずいて、そのまま会話が続行され、問題がない場合もありますが、後になって、理解できていなかったことがわかり、つまりがでることは よくあります。このわからなければ、相手に聞くということを会話に差し挟むという行動は、余程恣意的にやらせないで 実際には難しいと思いますが、どんな指導・活動をさせたらいいでしょうか。</p>
<p>61 『できる日本語』6課の活動をHPで共有されたとのことですが、外部の反応はどの程度ありましたか。またどのような意見や提案がありましたか。</p>
<p>62 今後、さらに新しい初級教科書が必要か</p>
<p>63 今後の教科書の形（e-bookやAI日本語教師？）について、予想などがございましたら、ご教示いただければ幸いです。 また、漢字圏学習者にとって、現状の教科書の不足点についても伺えればと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>64 1. “Form”について 「げんき」の文法説明では、学習者から「dictionary formはShort formですか」という質問を受けた際、どのような説明を想定していますか。「Short Form present tense affirmative of verbs はdictionary formと同じ」「dictionary formはShort-formsの一部」と言った場合の“Form”意味を問われた場合です。2. 文法項目の提出順序について 「げんき」では、8課でShort Forms Present tense と、その一部としてNegative Short forms of verbs(いわゆるナイ形)の活用が同時に提示されています。また、9課では、同様にShort forms Past tenseと、その一部としてShort forms past tense affirmative of verbs(いわゆるタ形)が提示されています。しかし、Short forms の活用と、ナイ形・タ形の活用を同時に扱うと、負担が大きすぎるように見受けられる学習者がいます（9課に入るまでに、te-formsが完全に定着していない学生など）。そこで、いわゆるナイ形もタ形も活用の練習をして、さらに、それぞれを使った文型でも練習してから、Short formsを既習項目の組み合わせとして練習してはどうかと考えます。しかし、ナイ形は8課の学習項目の提出順を変える（練習V⇒練習I）だけでそれですが、タ形を含む文型は11課で提出されているので、11課練習II・III⇒9課練習Iと、課の提出順を変えることとなります。テキストの学習項目の提出順変えるのは、本来、望ましくないと思いますが、学生の状況によっては許されるとお考えでしょうか。それとも、原則を崩すべきではないとお考えでしょうか。</p>

65	どのような教科書を用いても、初級から中級への移行に困難はつきもののように思えます。(初)中級のクラスや教科書は、異なるアプローチで初級を学んできた様々な学習者を受け入れる必要があるかと思いますが、その点についてはどのようにお考えでしょうか。初級・中級とシリーズで刊行されている場合、そのシリーズで一貫させることがベストなのでしょうか。
66	質問は別途記入
67	日本語を学ぶ際の目標の一つとして、日本語能力試験の合格を目指す学習者も多いと思います。また、ある教科書をメインテキストとして用いて日本語を勉強した際に、日本語がどのレベルまで到達するのかを示していくことも求められていると思います。 教科書を作成する際に、JLPT、各種CDSやCEFRなどとの関係について考慮されたかどうか、もし、考慮された場合には、どのような点で工夫などをなされたか伺えたらと思います。
68	加納千恵子先生 S F Jは優れた教材だと思います。しかし、開発後30年も経ちますと時代やメディアの進化、教授法、学生の背景や学習ニーズの変化などに伴い改定したいことが出てくると思われれます。それはどのような点でしょうか、また現在どのような対応をいらっしゃるか、今後どのような展開をお考えか、お聞きしたいです。
69	名須川先生へ 先生のテーマに大変興味を持っております。ご質問ではございませんけれど、「新文型紹介では、できるだけシンプルで分かりやすい説明を心掛け、細かいこと。」についてもうちよっと詳しく教えていただければありがたく思っております。①シンプルな用例とは、意味がある用例を挙げるのか(例1)、文法を説明するため単文を挙げるのか(例2)をお聞きしたいです。例1「今忙しいですから、ちょっと待ってください。」例2「待ってください。」②文法を説明する場合は、名詞・動詞・イ形容詞・ナ形容詞それぞれの品詞別の例を挙げ、説明することですか。あるいは、品詞別ではなく、一つの品詞(例えば、名詞)の例を挙げ、他の語形変化を学習者に自分で気をつけながら練習しますか。③規則的でなく、例外の場合はいつ、どのように教えたらいいですか。以上です。宜しくお願い致します。
70	学んだ内容を会話練習にうまくつなげられません。クラス授業では特に難しく、できない学生がおいていかれてしまいます。クラス全体に効果的な会話授業を教えてください。
71	今後、テキストの改訂をお考えであれば、どこをどのように改訂されるか。特に、ICTの発展による教え方や学び方の変化に対応した改訂点があれば、うかがいたい。
72	ベトナムの留学生を対象に授業で「できる日本語」を使用している新米教師(3年目)です。 場面シラバスの中心で、私自身、文法が見つけれなかったり、うまく説明できなかったりすることがあります。場面の中に隠されている定型文法を自分なりに読解し、授業準備しているので、導入や例が、文法脳だと先輩教師からよく指摘をうけます。私自身、まだ文法理解が不足で不安なので、他のテキストの教授本を読みあさり、学びながら、授業を構成しています。 (できる日本語には、具体的な教授本がないため、教える内容があっているか不安になります) 留学生は、みんなを学習してきていて、体系的に学びたがりです。 自分の力量不足もありますが、若い留学生は、3時間対話中心の授業や練習があきてきて、対話練習時には、内職するもの、他のおしゃべりをし始めるものなど、クラスコントロールがとても難しく感じます。 (これは私以外のクラスでもよくきかれます) どのように対処すれば良いのでしょうか？ また「文法ノート」は、授業該当部分を宿題にしていますが、熱心な学習者は、テキストをみて予習をしてくると、チャレンジも、そらぞらしいものになってしまう時があります。 他の学校や団体でも教えていますが、使用している各テキストは、一覽して教師もできる目標と学ぶ事項が明文化されているので、教師、学習者ともに理解しやすく感じます。 スパイラル式なので、学びが完結しないにしても、授業後、学習者がどうのことを学んだかを一覽して見直せる方法は、復習法はあるのでしょうか。
73	「できる日本語」についての質問です。 中級では語彙が難しくなりますが、学生には事前に調べてもらう、または、授業当日に考えながら/語彙リストを見ながらするのは、どちらが効果的なか悩んでいます。当日にすると、語彙力がまだまだな学生とそうではない学生との間で理解度の差が出てきてしまい、授業の進行がうまくいかないことがあります。 よろしく願います。
74	『まるごと』には漢字入門編から提示されていますが、CEFR (JFスタンダード) との関連を教えてください。
75	『できる日本語』に関して：使用したことはありませんが、対話力重視という点にとても魅力を感じ、いつか使用してみたいと思っております。そこで、いくつか質問です。・何人ぐらいのクラス編成を想定して作られていますか？…ペーパー練習、ロールプレイ等のタスクがありますが、やはり20名前後のクラスでは使いにくいのではという不安があります。・読み書きがある程度できる学生が対象ですか？…ほかの教科書に比べて文字が小さく、漢字のルビも小さいので、全くの初級者には少し読みにくく難しいかもしれないと感じています。最近では読み書きができない状態で来日する学生も少なくありませんが、もう少しレベルが高い学生が対象でしょうか。・副教材(文法・ことば)も充実していますが、全てをこなすにはかなりの時間が必要かと思えます。1課を何日で進めるのが理想でしょうか。『みんなの日本語』に関して：現在初級クラスでは『みんなの日本語』を使用しています。文法説明やドリルはしやすいと感じていますが、学生たちは機械的にはできますが運用がなかなかできないのが悩みです。練習Cやこちらが+αで別の練習を準備する必要があるかと思いますが、時間が限られておりなかなかできないのが現状です。資料では(p.5,6)会話練習→発表(9'12)のステップがありますが、実際どのくらいの時間をこちらにかけられているのでしょうか？また、読み書きがままならない学習者も多く見受けられますが、そうした学生はこちらのテキストの文字の多さに圧倒されてしまう気がします。そうした学習者にもうまくこのテキストを活用する方法があったらお聞きしたいです。以上、基本的な質問で恐縮ですが、宜しくお願い致します。
76	①教科書が作成された意図通りに使用されるために必要な注意：文型積み上げ式に慣れた教師がそうではない教科書を使って授業をする際に、何かトレーニングは必要でしょうか？また、国での学習スタイルが「暗記」が中心だったり、教師の用意した「正解」を答えられることが勉強だと考えている学習者に、どんな対応をするといのでしょうか。②教科書使用の現場での評価方法について：文法積み上げを主とした教科書でなくても、評価をする際には言語項目の正確な習得についての視点も入ると思います。学生の中には、言語項目の習得についての評価が重要で、どんな活動を楽しんだにしても、結局のところ文法や漢字以外は勉強ではないと感じている学生もいるのではないのでしょうか。教科書を作成される際、使用現場での評価方法についてはどのように考えておられますか。
77	加納先生へ 資料を拝読しました。学習のはじめの段階から会話の複雑さを見せている点、学習すべき情報が明確になるように、説明やタスクとともに厚く設計されている点に、特に関心を持ちました。現在、会話分析の手法に基づいて初級教科書を試作されているとのことですが、誰のどのような会話を分析していらっしゃるのかということ、会話分析をされた視点から、SEJのプリセッション、モデル会話、Conversation Notes、文法項目等へのフィードバックがあれば、伺いたいです。
78	名須川先生へ ・1つの課を何日(何時間)でこなしているか？・聴解、読解などのサブ教材をどのように(どのようなタイミングで)使っているか？・会話の練習をする際、発音の修正はどの程度するか？(発音練習はどのように練習している？別の教材を使っている？)・資料P4の「第14課」の具体的な授業展開について。記載の中で、「1)「て形とは何か」を説明する」とありますが、私自身は、実際の授業において、記載の(3)の内容をやってから、「(1)て形とはなにか」を説明し、「(2)て形の作り方(ルールの説明)」をするようにしています(て形を含む文型をどのような場面で使うかをまず提示して「て形」を導入する方が、学生自身が「て形」を学ぶ意味(必要性)を意識することができる、と考えられるため)。最初に「て形」について説明した際の、学生たちの反応はどのようなものか、また、まず「て形」を説明することから展開していく理由をお聞きしたいです。
79	「みんなの日本語」を使ったcan-do型授業の展開についてどのようにお考えですか。
80	Can-doを中心に考えた教材の開発の場合、文字の教育についてはどのようにお考えになりますか。
81	「まるごと」では、学習者の暮らす国や地域で学習者の母語で授業が行われていますが、日本国内で使用するときの注意点、工夫などを知りたいと思いました。
82	学習進度の遅れる学生や、学期を超えても同一レベルになってしまう学習者へ対しての、授業内活動への電子教材の今後の導入や活用法については、指導教材とどのように霖雨させていくのか、また授業以外で学習者のモチベーション向上における電子教材の有効性について

83	教科書の著者のみなさまへの質問です。 みなさんが作成された教科書は、対面授業の場で利用されることを前提として作成されたことと思います。しかし、近年、学習者の多様化や個人差を補完するために、反転授業 (Flipped Classroom) のようなオンライン学習と対面学習を組み合わせたブレンド型の学習が行われるようになってきました。これまでのように教室で対面学習を行なうのであれば、教員が授業の導入のために作成するスライドには、教科書のイラストをコピーしたり、例文をそのまま使用することが容認されてきました。(たとえば、「みんなの日本語」は導入のためのイラスト集も販売されています。)しかし、反転授業の場合は、教員が作成したデジタルコンテンツをオンライン上で教室外で視聴するため、著作権法35条(学校その他の教育機関における複製)の対象外になってしまうことから、著作権の扱いに頭を悩ませています。そこで著者のみなさまにお尋ねしたいのですが、教科書の利用者が著者のみなさんに次のような利用許諾を求めてきたら、どのように対応なさいますか。<問い合わせの例>「初級(中級)日本語の教科書の文法の新規学習項目に関して、反転授業用の動画を作成することになりました。つきましては、教科書に掲載されている例文とイラストを使って、導入のビデオを作成したいと思っています。作成したビデオは学内のLMSにアップロードし、学習者に授業外で視聴してもらおう予定です。尚、本学は学校法人ではありませんが、民間の日本語学校です。利用してもよいでしょうか、お返事をいただければ幸いです。」
84	SFIIに続く教材開発の予定がありましたら、教えてください。
85	特になし
86	NEJの会話能力について
87	どの教材も作成者の考える学習デザインを基礎に作られているとは思いますが、出版されて広く用いられる中で、その意図とは違う用いられ方をする場合も多くあると思います。そのような意図とは違う利用について、どのようにお考えになるかをうかがえたらありがたいです。また、他の教材との併用については、どのようなご意見をお持ちでしょうか。
88	まるごとを使って授業をした場合、どのようなテストが考えられますか。
89	日本における留学生への日本語教育で使われているメインテキストの主流が「みんなの日本語」である理由はズバリ何だと思われますか。また、今後それは変わると思われますか。
90	海外での日本語教育において、熟達度をはかる勉強をする場合、日本での日本語教育とは少し軸(できること)は変わるのでしょいか。
91	教科書を選ぶ際、第二言語習得研究で得られた知見と合致しているか、または知見を取り入れているかどうかを基準にしていますが、『まるごと』や『NEJ』のようにこれらの知見を活用しているのがわかりやすく提示されているものもあれば、必ずしもそうではないものもあります。
92	各教科書作成の際、第二言語習得研究をどのように意識されたのか、またはどのような点が知見と合致しているかについて伺いたいです。
93	会話メインで進められるのはいいのですが、文法の説明や例文が巻末資料だけなのを少ないと心配する学習者がいました。このテキストでは文法の扱いをどうすればいいでしょうか。授業では文法ノートまで手が回らず、宿題にすることが多かったです。
94	今後、どのようなテキストを作りたいか、夢を語ってほしいと思います。
95	第二言語を習得するとき、その言語の動詞の活用を最初に示したほうが理解しやすいと思うのですが、「辞書形」からスタートする教科書はまだ見たことがありません。その点についてのご意見を伺えましたらと思います。
96	文型を習得することに満足してしまう学習者が一定数おり(ある程度国籍別の傾向があります)、クラスメイトとやり取りしたり、校外で日本語を使うような活動や課題を設定するよう試みますが、取り掛かりに時間がかかるなどしてしまいます。クラスの構成等にもよるかとは思いますが、どのようにしたら効果的でしょうか。
97	・筑波大学・加納先生への質問 →新開発教材『NSF』について 「クイズ的、ゲーム的なもの」に非常に興味がありますが、各レッスンのモデル会話などとの関連性があるクイズ的、ゲーム的なものになるのでしょうか。それとも各レッスンの学習目標とは直接関わっていないものを(あえて)提示するのでしょうか。 どのように提示されるのか、その目的について伺えたらと思います。よろしくお願ひします。
98	1. 私の学校では、開校当初より非漢字圏の学生が多く、特に近年増加しているスリランカからの留学生において、漢字への苦手意識がなかなか払拭できず、それに伴ってか、理解度・習熟度が向上してこないため成績が上がらず、結果として同じクラス(学習内容)を繰り返してしまうという悪循環が起きてしまっております。「みんなの日本語(初・中級)」[中級まで]と「中級から学ぶ日本語」を使用した、いわゆる一般的な指導カリキュラムを組んで指導しておりますが、もしかすると抜本的な改革が必要なのではないか?という思いを抱いております。非漢字圏の学生たちに対するアプローチ、また一緒に受講する漢字圏の学生(漢字が好きな非漢字圏の学生も含む)たちとの兼ね合いなどについて、ご教授いただければと思います。2. 留学生の指導と並行して、外国人技能実習生の入国時研修も実施しております。公益財団法人国際研修協力機構(JITCO)作成の「みどり」というテキストを中心に指導しておりますが、学生(実習生)のレベルによっては「まるごと 日本のことばと文化」を使用させていただくこともございます。カラーでイラストや写真も多く、非常に目を引きやすいのと、現代の文化的な内容も多く扱われているので、興味を引く内容だと思います。文法や漢字、作文といった試験に出る日本語ではなく、実際の周囲の日本人とのコミュニケーション力の育成・上達が必要とされる技能実習生や地域ボランティアでのニーズは多いのではないかとと思われるのですが、国内外を含めての実際の採用状況や指導の様子などをお伺ひしたいです。
99	場面シラバスの教材で話すことを中心に教えていくと、伸びていくことは分かっているのだが、専門学校などへの進学は難しい。カリキュラムと学生の適正の問題。 「できる日本語」監修者 嶋崎和子様へ 現在、弊校の総合教材として「できる日本語」初級と初中級を使わせて頂いております。が、中級への橋渡しに難航しているクラスが多く、私自身も10月より初めて中級を使う予定でいるため、不安が拭えません。特に、初級～初中級に使用されていた『文法ノート』のような中級のワークブックを作られていないのは、どのような理由のためなのか、また、自身で『文法ノート・中級』に値するようなワークブックを作るとした場合、どのようなことに留意すべきか、何卒ご指導ご鞭撻を頂きたく、よろしくお願ひ申し上げます。
100	西口さんの論文は引用が多く、難解でした。
101	噛み砕いて、平易なことばで解説していただけたら、うれしいです。
102	なし
103	10年後も教科書という媒体は使われていると思われますか? 名須川典子先生へ 「みんなの日本語」は本校でも初級クラスに使用しているテキストです。『文型積み上げ式であるが、使い方を工夫すればコミュニカティブアプローチにつなげていける』というご意見にとっても共感を覚えました。そこで質問ですが、資料に記載された各課の授業の進め方ですが、1)～13)に対して、貴日本語センターでは各項目何分位か、また一つの課に対して何時間想定されてカリキュラムを組まれているのか、お差し仕えなければお教えいただければと思います。
104	教科書の電子化について伺います。電子化を視野に入れて作成されていますか。また、今後、日本語教科書の電子化は進んでいくのでしょうか。その際、紙の教科書とは異なる見せ方、構成、練習方法などが求められてくるのでしょうか。

105	さまざまな教科書の著者の先生方から直接お話を伺える機会をとても楽しみにしています。教科書を作成される上で大切にしたこと、また、使用するとき大切にしてほしいことを教えていただけるとうれいです。どうぞ宜しくお願いいたします。
106	質問は後日、別途送信
107	西口先生のバフチンに関するご論考の発展として、中級、上級の教材のあり方に関してもお話を伺いたいです。よろしくお願ひします。
108	それぞれの教科書で日本語を学んだ学習者が、日本語を使って、どんな体験をして欲しいか、想いがありましたら教えていただきたいです。
109	いま働いている学校では、みんなの日本語の本冊のほか、学習者の母語の文法解説書を配布しています。文法解説書は授業中新しい言葉の導入時に使い、母語での文法解説部分については自宅学習として予習復習に使う想定です。教えながら学習者の運用力が思うように伸びないこと、四技能の偏りなどを感じ、タスク先行型、コミュニケーション重視の初級学習にも取り組みたいと考えようになりましたが、自分自身の初級時点での外国語学習から考えて、母語での文法解説や辞書の存在しない初級学習がなかなか想像できません。学習者が積極的に日本語を使おうとするほど、文法や語彙の不足が運用を妨げ、結果として文法解説書や辞書が必要になるのではないのでしょうか。
110	「みんなの?本語」：名須川典?様 みんなの日本語を設立当初から一貫して使っているとのことですが、他の教材への変更を検討したことはなかったのでしょうか? もしあるとしたら、検討した要因は何でしょうか。
111	文型積み上げ型の要素も、コミュニケーションな要素も、両方大切であると考へます。両方の要素をバランス良く取り入れることが出来れば理想だと思いますが、なかなか難しいのが現状です。例えば初級は積み上げ型教科書、中級以降でコミュニケーション重視の教科書に変更する場合、教える側として特に注意すべき点等ありましたらご教授ください。
112	「まるごと 日本のことばとぶんか」における海外の日本語きょういくののための試み の中で課題遂行能力を養う学習を重視しているとのことですが、まるごと使用時の学習評価として既習トピックのCan-doをロールプレイなどで行われた場合に、該当する課で学習した以外の文法・文型のみを使用しCan-doを遂行した場合の評価はどのようにすべきでしょうか。学期中に学習した範囲の文法・文型を使用しなくても、学習者が使用可能な知識を利用し課題を遂行すれば最高評価とするべきだと思いますが、その指標では新たな文法・文型にチャレンジする意欲が向上しないと考へます。
113	以前は中国系の学生が多かったが、現在はベトナム、ネパールなどの漢字を使わない国の学生が増えています。それらをふまえてカリキュラムや新たな工夫点など、どのように考へて教科書を作られていますか?
114	教師がテキストを使って教えていくうえでそのテキストを有効に使いこなすことの重要性を現場で感じています。新人教師は、養成講座で扱わなかったテキストを手にしたときに戸惑いを感じると思ひますし、ベテラン教師においては教科書分析をしたうえでの使用になると思ひますがそれはテキストの特徴を活かしたのものになっているかどうかはわかりかねます。教師の手引きを用意されているテキストもあればテキストの使い方を書いたものがないものもあります。またその記述にも特徴があるかと思ひます。著書の皆さんにはそれぞれに特徴を活かしたテキストをおつくりになったと思ひますが、教師がそのテキストを有効に使いこなせるようになることについてどのように考へてでしょうか。何が必要でどんな能力を養う必要があるとお考へてでしょうか。
115	嶋田先生にお願ひします。 できる日本語初級、初中級での「言ってみよう」の進め方と言語知識を磨くということについてお願ひします。 現在、できる日本語シリーズを使わせて頂いております。最近教師間である疑問について、その考へ方が分かれるということがありました。それは、下記のようなことです。 できる日本語には本冊と別冊に沿った「イラストレーターCD-ROM」があります。CD-ROMからダウンロードしたイラストをホワイトボードに貼り、授業を進めています。しかし、テキストには、文字が入っています。CD-ROMからダウンロードしたイラストには文字がない場合があります。また、別冊のイラストにも文字がほとんど入っていません。それで、ダウンロードしたイラストや別冊のイラストに文字を手書きで書いたほうがいいという意見と、入れない方がいいという意見に分かれています。入れたほうがいいというのは、ドリル練習もしつかりやったほうがいいから。入れない方がいいというのは、入れてしまうとドリル練習に終始してしまいがちになるから。イラストに情報として文字を入れた方がいいかどうか、という疑問にお答へいただければと思ひます。 そして、別冊、言ってみようで、言語知識をしっかりと磨きつつ、意味のあるタスクにつなげるということについて、具体的にお話をお伺ひしたいです。よろしくお願ひ致します。
116	名須川先生への質問です。 私は現在、海外(台湾)で教えています。台湾でも「みんなの日本語」を使って教えている教育機関が多くありますが、その教へ方がどうしても講義調になってしまうと聞きました。口頭練習の時間がほとんどなかったという話もあります。また、学習者がそのようなスタイルを望んでいる場合もあるようです。 インドではどのような実情なのでしょう。またインド人の先生と日本人の先生の教授スタイルの差などがありますか。
117	八田先生へ ①今現在、たくさん学習ツールがあり、教科書はあまり重要視されていない時代において、教科書の位置づけ、及び教科書を研究する意義は何でしょうか。②日本で出版された教科書は、音声教育が軽視される傾向があると思ひます。例えば、教科書の最初のところで簡単に五十音図を紹介するにとどまっていると言へます。そこはどうか理解したらいいでしょうか。
118	大野裕氏に対する質問 げんきの文法説明について 「げんき」の文法説明は、項目によって、詳しくなムラがあるように思ひます。また、ほかの教科書とは違った説明がされているものもあります。 どういう方針に沿って、文法の説明が作成されたのか、教えていただきたいと思ひます。また、私の所属先でも「げんき」を使用していますが、文法説明に使われている英文がよくないと多くの声があります。ほかの方からもそのような声はあるのでしょうか。
119	出版社で日本語教材の編集を担当しております。日本語の教科書執筆者として、パネリストの先生方が、これから出版社に望まれることをお聞かせいただければ幸いです。
120	1. 日本語を教えるにあたって、「教科書」とは何か、必要かということについてパネリストの皆さんに是非聞いてみたい。 2. 長らくメイン教材として使われてきた「みんなの日本語」「げんき」「SPJ」がなぜ長い間使われてきたのかについて、著者自身どう考へているのか聞いてみたい。また、現在、これらの教材を使用する場合、どのような部分を付加する必要があると考へるのか聞きたい。 3. 海外、日本のどちらでも、「みんなの日本語」を使って教へていて、語彙の量が多いと感じることが多かった。教科書作成に当たり、新出語彙の量について、どのような考へを基に量を決めているのか、知りたい。 4. 「できる日本語」で提示された「学び方が学べる教室」というキーワードは、最近教へていて重要性を強く感じるようになったが、教科書を作るとき「教室」と「教室の外」をどうつなげるかということについてパネリストの方の考へを知りたいです。 5. 経験の乏しい教師にも使える教科書という観点で教科書作成の過程で考へられているか否か。
121	今、海外では、日本のマンガ、アニメ、ゲームなどのいわゆる「オタク文化」が相当な勢いで流行しているようです。このような、外国人に興味を持たれやすい現代日本の文化を日本語教材にどのように取り入れていくのか(既に取り入れているものに関しては、どう更新していくのか)、について、目先の対応ではなく5年後10年後のビジョンをお伺ひしたいです。
122	テキストの内容をインターネット上の教材として利用させていただくことは可能ですか。
123	導入が大切なことは理解できますが、中級レベルの学習者に同様にしたらいいのか迷う。 また、代入練習など、学習者が面白くなさそうな様子で練習していることがあり、どのように真摯に取り組ませられるか、試行錯誤です。

124	アルゼンチンの在日日本語教育連合会に配属中。こちらの日本語教師の指導にあたっています。ちょうど一時帰国していますので、参加希望。can-doの考え方が、ブラジルのJFのおかげで随分こちらにも浸透して来ています。しかしながら、具体策が教える側に定着しません。今一歩進んで、外国人指導者が、ステップを踏みながら習得できるような方法はないものか、と模索中です。特に「みん日」を活用された名須川氏の試みに興味を惹かれました。ヒントを持ち帰れたら嬉しいです。後1年、在任の予定です。
125	「NEJ」テーマで学ぶ基礎「本語」：??光?様 2. コミュニカティブ・アプローチの超克について
125	学習者の学習意欲が乏しい教育現場では、コミュニケーション・アプローチの適用は難しいでしょうか？ 西口光一様
126	コミュニケーション・アプローチの言語学習観に基づき、教授法や教材等をパッケージ化することはできないでしょうか？
127	質問は別途記入
128	グローバル化が急速に進み、日本語を学ぶ目的が多様化するなか、日本語のテキストの多様化と教授法の多様化が日本語教育の日常となっているが、日本語学習の多様化する目的のなかで、そのどれにも共通する日本語学習の基礎はありえるのか。それともはじめからすべて異なるのか。
129	質問は別途記入
130	加納千恵?先生 「SFJ」では、文法能力と会話力をバランスよく伸ばすことを目的とされて作られた教材とのことですが、社会的状況による話し方の違いの理解をだいぶ早い段階から、初級の学習者に教えることもこのテキストの目的の一つであるとされています。例えば、資料に添付された第10課のモデル会話、生の日本語に近い会話を日本人の会話を「覗き見させる」といった意味合いも含めて、起用されていました。早期に本物の日本語に触れさせたことによる、実際の学習者の反応はいかがでしたでしょうか？また、授業を行ったあとの学生からのフィードバックや、発見などがあればお聞かせください。
131	名須川先生 P D F を拝読いたしました。P. 3の最後の行またP. 6の最後の2行に関連して質問がございます。初級（J F S）の学生に自ら考えてもらうとき間接法の利用度・有効性をどのようにとらえていらっしゃる、実際の授業をされていらっしゃるのかご提示していただければと思います。私はまだ教授経験が浅いのですが 成人に近い学生が学習課程で自らのことを言う機会が大切で有効だと思っております。しかし 文型導入後のアクティビティの段階だと こちらが提示する語彙だけでなく彼らが使いたい語彙をとり入れることが直説法だけだと難しいと思っております。いかがでしょうか。先生のご経験上からのお話を聞かせただけで大変ありがたく思います。西口先生 NE J では対話原理というこれまでの言語観とはことなる言語観に基づいて作成されていらっしゃるかと指導書に書かれています。NE J をメインとした場合学習者間の対話を扱うことはされるのでしょうか。また行う場合の実践例がございますでしょうか。ありましたら実践例をご教授いただけると大変ありがたく思います。現在学校では「大地」がメインテキストでNE J を作文・聴解・読解の教材として適宜使わせていただいております。以上質問は2つです。どうぞよろしくお願い申し上げます。
132	八田様への質問 1) 日本国内の多国籍学習者で構成される媒介語が使用できないクラスで『まるごと』（A1/A2レベル）を使用する際は、指導者が学習者の母語訳を準備して使用することを想定されているのでしょうか。 2) 日本国内の大学等への進学を希望する学習者を、『まるごと』を使用して、日本語能力試験N2レベルならびに日本留学試験・日本語230点レベルへ導いていくには、かなりの副教材を準備しなければならないように思います。『まるごと』の限界を教えてください。
133	「みんなの日本語」は「形・構造」が同じ文型を1つの課ごとにまとめたテキストですが、それは言うなれば「帽子」だけを1つの箱に複数入れるようなもので、しかし用途の異なる帽子が3つあっても、一緒に使えない。それなら、同じ箱に「泳ぐ」という目的で、水泳帽、ゴーグル、水着を入れたほうが、学習者はすぐに使えるようになると思います。「みんなの日本語」で教えると、そこを再構成しないといけなくなるし、再構成しなかったら、教えたのに使えない状態になる。その点について、みんなの日本語の執筆者の方は、どうお考えですか。
134	事前配布資料では、執筆者の方がどのようなスタンスで教科書作成にあたったのか、教科書作成までのプロセス等知ることができ、教科書を購入し使用しているだけでは知りえないことも知ることができ興味深かったです。 本校においても、今後いかにコミュニケーションの方向に持っていかれるか模索しております。昔は英⇒日翻訳が多かった時代でしたが、現在はそこから転換しています。新しいアプローチでのタスク、アクティビティ、練習問題や試験問題等を紹介して頂ければ勉強になります。 どうぞ宜しくお願い致します。
135	名須川先生へ 学習者の中に、文字が身に付かない学習者がいます。テキストVol.1はローマ字版があるのでそれを使います。英語の解説書を使いながら、問題なく進められるのですが、Vol.2はローマ字版がないため学習を続けるのが難しくなります。やはり、文字が読めないとテキストを使った学習の継続は難しいでしょうか。また、Vol.2のローマ字版は発行される予定はありますか。
136	「できる日本語」と「まるごと日本語」が使いにくいという声をよく耳にするので、実践例など活用方法を紹介してほしい。 「みんなの日本語」：海外での使用上の使いにくさについて → 会話や談話に出てくる不自然さなどへの対応はどうしているか。媒介後使用の際、文法詳細説明はどの程度行われるか。
137	「まるごと」：CDトラックの使用がやや煩雑な記憶があるが、同様の意見はあるか。
138	「みんなの日本語」を長年使用されていて、優れたところについてのご記述はありますが、逆に改善点や何かしらのご提言があればお聞かせいただければ幸いです。
139	「まるごと」開発者へ 「再話」の有効性を感じていますが、その反面、その後の学習者の発話モデルに引きずられて深まらない場合が多いです。 その点について、お考えをお聞かせください。
140	名須川先生：積み上げ式の練習から運用練習、コミュニケーションレベルの練習へというお話でしたが、どのくらいの割合で行うのでしょうか。時間が限られる中で運用練習まで入れるには限りがありますが、何か工夫されていますか。 八田先生：『まるごと』でJLPTの文法語彙文字をカバーできますか。
141	嶋田先生：『できる日本語』では語彙の扱いはどうなっているのでしょうか。語彙文法の定着はどうでしょうか。
142	質問は別途記入
143	CAを使って行っている授業例などはありますか。どこまで、教師が自由に行っているかは状況によって異なると思いますが、会話の例があればより理解が進むため、もしあればお願いします。

	「みんなの日本語」
144	文法の例文が大体丁寧形(例えば:です、ます形など)を使っていますが、日常生活であまり使いません。学習者にとっては、学んだことと使うことが違いますが、どうすればいいでしょうか
145	質問は別途記入
146	「まるごと」のB1レベルの教室で扱う課題遂行のための活動は、日本国内と日本国外で違いがあるか? あるとすれば、どのように違うか?
147	課題遂行型の教科書のまとめの活動として、「教室の外へ」出て学んだことを実践する活動例として、地域の方との活動例が出ていますが、著者の方々がどのような実践の場を考えていらっしゃるか、また実践したかをお聞かせいただきたいと思います。
148	「まるごと」における漢字教育の必要性及び実践例についてお伺いできたらと思います。
149	1つの教科書を最初から最後までやるのではなく、学習者の目標に応じて、必要なところだけを扱う、また他のテキストから必要な部分を取り入れる、という使い方について、どのようにお考えですか。
150	午前中のみしか参加できないので、質問はありません。
151	現在所属している機関では短期留学生(留学期間は1年)を受け入れています。初級終了程度で来日した学習者に合う教科書の選定が難しいと感じています。その理由の一つは、来日前までの学習背景が異なり、学習動機や学習目的もさまざまな学習者が混在していることです。また、学習者の学び方も多様ですが、まだ「自分に合った学習スタイル」を確立していない学習者も多くみられます。ただ、毎学期このレベルの学習者を一定数受け入れているため、このような学習者を対象とした総合教科書を作成する必要性を感じています。教科書作成の際に考慮すべきことについて、パネリストの先生方のご経験から、お考えをうかがえれば幸いです。
152	別途お送りいたします。
153	いずれの教科書も当時の日本語教育への挑戦であった(ある)とお見受けします。教科書の理念を広めていくにあたって苦労されたことや、それをどのように解決されたかなどをお聞かせいただけたらと思います。
154	「『まるごと 日本のことばと文化』における海外の日本語教育のための試み」の中の「6.『まるごと』の試用現場の反応と課題」で、JF日本語講座の『まるごと』を試用している教師へのアンケート調査が報告されていました。その中で、「A1の初学者に漢字や読解は無理だと思っていたが、実際にはできて驚いた」との報告がありましたが、その内容を具体的にお聞きしたいと思います。
155	1. 教科書は10・20年経っても使われ続けるとするならば、次の時代に紙が使われなくなった場合、日本語の教科書をどのように適応させるか。例えば、オンライン教材やe-bookにするのか。 2. 海外で使われる日本語教科書の英語版は、英語非母語話者にとって、内容を理解するのににより時間がかかり、さらに難しいと感じる。その代わりに、英語版ではなく、優しい日本語で文法の解説や練習問題、活動の説明を書くことは可能か。 名須川先生へ 『みんなの日本語』をメインテキストとして使っていたが、週4時間、2時間が文法の授業であった。学習時間の少ない授業では文法の授業をどう進めればよいか。文法を予習させたり、アクティブラーニング教室として学習者同士が互いに文法の説明をしたりする授業を試みたが、うまくいかなかった。よい方法はないだろうか。
156	「できる日本語」の嶋田先生へ質問です。「できる日本語」の中級を使用していた際、課末の「できる」に着手できず、悩んでいました。他にも指導書がないため、他の機関発行のものから文型をたくさん探したり等、時間的なことやアウトプットする際の制約等もあり、結局文型の説明や練習問題で終わってしまいました。現在、他の理由もあり「できる日本語」はお休み状態で、他の教材を使っています。「できる日本語」を生かすきれなかったのは何故だったのか未だよくわからずにいます。何が良くなかったのでしょうか。
157	パネル全体への質問です。 現在、教育全体が21世紀型スキルを意識し変革が求められるようになっていく中で、日本語教育はどのようにこれに対応していくべきでしょうか。コミュニケーション、コラボレーションが重視され、課題に対して新たな解決策、新たな価値を創造していくことが求められることに対して、それぞれの教科書はどうこれに対応できるのでしょうか。
158	私は日本語を海外の方に教えてはいますが、一年間しか日本に居ない方にもっと効率的に日本語をマスターして頂く方法はないかと頭を悩ませています。よい方法がありましたらご教授頂ければと思います。
159	学習者にとって、教師にとって、デジタル化したほうが有効と思われる教材はなんだと思われませんか。また、紙の教科書にしかできないことは何だと思われませんか。
160	これから資料を読ませて頂き、考えます。
161	みんなの日本語、名須川典子先生にご質問いたします。 私も日本語学校ではみんなの日本語を使用しております。「教師があまりにも正確さを求め、些細な間違いも執拗に直し続け。積み上げのみに重きを置いた練習ばかりしていると、学生が自由に日本語で発話をすることができなくなり、正確な日本語の分は話せるが、運用やコミュニケーションが全くできなくなってしまう恐れがある」というところに、強く共感しました。しかしながら、正確さを求める教師というのは非常に多く、残念なことに筆記はできても話せない学生がいることもしばしばです。 質問ですが、『みんなの日本語』には、時々、日本人もあまり使わない表現が出てくるのですが、コミュニケーションレベルの練習へもっていくのにどこまで内容を広げますか。例えば9課では誘いの断る表現が会話と練習C3に出てきますが、実践ではあまり使えそうにありません。例えばよく使う断り方として、断る→理由→気持ち→代替案(すみません、その日は用事がある・・・。国から友達に来るんです。でも、私も動物園、興味がありません。もしよかったら、来週の日曜日が開いているんですが都合が合えば行きませんか。)のような決まった構造が根底にあると思います。しかし、この時点では使える文型も少なくここでもっといくのは難しいと思われませんか。とはいえど、ここでみんなの日本語の断り方を身につけてしまうと、ちょっとぶつきらぼうな表現になりかねません。コミュニケーションレベルの練習をするために積み上げ式はしばしば窮屈な時がありますが、教科書通りの文法範囲で練習をするのか、教科書の枠を超えて練習をするのかという点をお伺いしたいです。また、枠を超える場合はどのように練習へもっていくか興味があります。 私の場合は、定期テストもあるので枠を超えることは難しく、教室内のレベルも様々なので、テキスト通りの内容になってしまっています。そのせいか、機械的な会話が多いように感じています。一方プライベートレッスンでは積み立て不要の教材を使って、一週間に数回のレッスンでもコミュニケーション能力がどんどん上がっているのを実感しています。『みんなの日本語』は積み立て式としては非常に使いやすいですが、コミュニケーションにもっていくにあたって、今回何かヒントを得られれば幸いです。よろしくお願ひいたします。
162	各教科書の今後の展望?展開について。
163	教育の成果は表に現れるまでに長い時間がかかると思います。経験の長い先生方は、いくつかの教科書を使って教えたことがあると思いますが、教科書の違いが学生の能力にどのように影響を与えるか知りたいです。話せるようになる、ならないだけではなく、モチベーションや自信、アウトプットの内容やストラテジーの使用量など。
164	名須川先生へ 授業における「コミュニケーション」の練習について2点質問させていただければ幸いです。1) 会話練習での他のメンバー及び教師からのフィードバックにおいて「文法的な間違いよりも運用的・コミュニケーションにおけるポイントにフォーカスする」とありますが、発表を聞く側の学生に運用的・コミュニケーションについて注目させ、発表者に対して効果的なフィードバックをさせるのはなかなか難しいと感じます。フィードバックでは具体的にどのような指導をされているのかお聞きできましたら幸いです。(また、会話発表者へ具体的にどのようなコメントをされているかも伺えましたら幸いです。)2) 14課「～を～てください」での例では、「会話作成・発表1→フィードバック→会話作成・発表2」のように丁寧に会話練習が行われていると感じました。本来、会話練習をここまで丁寧にやることのできるものが理想だと思うのですが、スケジュール上難しい場合もあり、どうしても文型積み上げ練習に偏ってしまうというケースも少なくないと感じます。一連のコミュニケーション練習(会話練習)はどのぐらいの時間をかけているのか、また会話はどのぐらいの分量のものを学生に作成させているのかを伺えましたら幸いです。

165	20年後も使われることを想定して教科書を作るという言葉がとても印象的でした。どの教科書も真正性を意識して作られていると思うのですが、日本人が話す規範としての日本語だけが教科書に載らなくなるかもしれないと思いました。（知っている限り、留学生の会話であっても文法的間違いのない会話だったり、発音も日本人の声優がしているものなので）
166	『みんなの日本語』で扱われている学習項目（文型）イコール、一般的な日本語初級シラバス、という形になっている現状があると思いますが、そもそも、初級でこの文型を学ぶ、とした根拠や背景のようなものは、何だったのでしょうか。
167	「まるごと中級」カンボジアでのノンネイティブの先生方について、興味深く拝見しました。カンボジアの学校教育では教師主導の講義型に慣れている、ということですが、「まるごと」が使われた際の学習者の様子はどうでしたでしょうか。
168	加納教授 会話場面はどの程度候補に挙げ、最終的にその場面に絞った理由があればお伺いしたいです。（学習者のニーズに伴った場面や身近な場面は習得が早いと考えられることからの質問です）また、時代の流れとともに身近な場面というものがかなり変化したと思いますが、現在「何を捨て・何を加えるか」の部分で、確実に加えなければならないと思われるものがあればお伺いしたいです。
169	「まるごと」は、海外での学習者に向けて作られたとのことですが、国内での活用の可能性や課題についてお聞きしたいです。
170	日本語教師の養成講座を受講中の身ですが、後学のため参加させていただきました。今回お話し頂いた教科書はいずれも、留学生への教室指導を大前提としているものかなと感じました。（誤解がありましたらご指摘ください）しかしながら日本語を学習する方々は多様性にあふれていると聞きます。海外の学習者で、日本に観光に来たから本場の教科書を買って独学に生かしたい方、学校に通うのは時間的経済的に難しい方など。日本語教師としては、みんなが独習してしまうと商売あがったりですから考えるのが辛いところですが、教科書作成という観点から考えると、独習者への対応もひとつの課題ではと思いました。独習者がそれぞれの教科書を使うための配慮や工夫などがありましたら、ご紹介いただければと思います。同様に、外国にルーツをもつ子供たちの学習にその教科書を使うための対応や工夫がありましたら、ご紹介いただければと思います。彼らへの教育も課題が多いと聞きましたので。
171	<教科書の”執筆者”の先生方への質問> ※以下、1～3は連続する質問です。 1. 教科書開発時の広報等の際、執筆された教科書の理念・目指すもの、それを具現化する教科書での試みについて、広報する相手、教科書の潜在的活用者に理解されにくい、伝わりにくいと感じられたことはありましたか。 あった場合、 2. 理解されにくかったことはどのようなことですか。 理解されにくかった要因はどのようなことだと思われますか。
172	3. 教科書の潜在的活用者がその後活用者となるかは別として、コンセプトや教科書での試み自体が誤解なく理解されるために、何か対応されましたか。
173	名須川先生 バイエルでピアノをやめた経験があり、先生の文章に大変納得致しました。 「有名な曲の一節を子供たちに弾かせてあげる」にあたる初級におけるアクティビティ、ゲーム等の良い実例がございましたら、ぜひご紹介頂きたいです。
174	173「場面・状況の重視」とありましたが、共通テーマ、各レベルのタイトルはどのように選ばれたのでしょうか。 1. 西口先生の「コミュニカティブ・アプローチの超克」を拝読しての質問です。ご提案の「再構成アプローチ」の意味がよくわかりません。「『学習するtextに基づいて、またはそれを利用して、学習者が学習者自身のことを表現する』ことを重視したアプローチ」という意味であれば、それは、これまでもいわゆるコミュニカティブ・アプローチの授業で行われてきたことだと思うのですが、それと、「再構成アプローチ」の違いは何なのか、わかりやすく説明していただければ大変ありがたいです。 2. 那須川先生への質問です。日本語センターで、6週間、280時間の企業研修で、研修終了時のターゲットレベルが「日本へ行ってから通訳なしで、業務・研修が遂行できるレベル」というのが非常に高い目標設定だと感じます。「業務・研修が遂行できる」というのが具体的にどのような言語表現を使って、どのようなことができることを指すのか、説明していただければ大変ありがたいです。
175	・それぞれの現場における到達目標や教科書のコンセプトなど総合的に判断して教科書を選定する際、「どのような視点が最も必要であるか」について、どのようなお考えを先生方がお持ちでいらっしゃるか。 ・教科書購入金額について、製作段階の過程では、どの程度考慮されているものなのか。
176	175・今後「新たな教科書」となったときに、どのようは方向性のものが考えられるか。 毎回初級クラスで「てけい」や「ふつうけい」などの導入の際、この変換がその後の勉強に如何に重要かということをお伝えしているのですが、なかなか伝わっている感じがしません。学生は、あとから、こんなにたくさん文型に絡んでくるのか、もっとあのとききちんとしておきたかったという印象を持っている気がします。どのように伝えたら効果的なのでしょうか。
177	「新開発教材におけるタスク作成（1）」のP68のタスク作成過程の一番最後に教師用マニュアルを作成する工程が出ています。教科書作成と同じように、教師用マニュアルではどのような日本語教師を想定し、また狙いややり方をどこまで伝えれば再生が可能になるのかという算段を持って作成したのかに興味があります。これは他の教師用マニュアルについても同様です。よろしく願います。
178	多国籍で多様な学習目的を持った学生が同じクラスにいる場合、一番適している教材はどれだと思われますか。
179	また、最近主流の活動型授業を展開しやすい教材はどれだと思われますか。
180	初級のテキストの中に、学習者の基礎学力が伸ばせるような要素はありますか。 >西口先生
181	180文型積み上げ型からアプローチを変えた当初、学習者、講師に戸惑いはなかったか、あった場合、どの様に対応したのか。 先生方が教えるクラスのレベルに合わせて、教材をアレンジして教えることがあると思いますが、教材を作成するときは、そのあたりを見越して作成しているのでしょうか。
182	『げんき』についての質問です。『げんき』に使われている英語の語彙が難しいという話をききます。私も難しいような気がしています。先生の資料では、受動態を能動態にするなど、英語の文型をやさしくしていると書かれていますし、実際、文型はそう難しくないとします。英語の語彙の選択について参考にした基準等、何か情報がありましたら教えてください。
183	レベル差のあるクラスを教える場合に、どのように教科書を位置づけたらよいかを伺いたいです。
184	親子関係をはっきり提示したり、文法使用の場面がはっきり提示がなされていない練習や教科書が多いように思いました、そのことをこれから、調べてみたいと考えていますが、今後新教科書を作成するにあたり、その辺りのことをどのようにお考えかお聞きしたいです。
185	「みんなの日本語」 日本語の教科書として、世界中で一番使われている教科書ですが、最近の行動主義に基づいて作成された日本語教科書と比較し、優れていると思われる点は何でしょうか？

186	西口先生へ、勤務校で2年ほど初級後半日本語のコーディネーターをしており、読解・作文でNEJを併用しています。自己表現活動中心というNEJの特徴を今一つ授業活動で活かせていないです。受講者の中にはテーマによっては自分のことを積極的に表現しない、またはしたくない学生がいます。自己表現活動をクラスで共有する場合、自己開示に繋がらざるをえない傾向がありますが、クラスで共有しなくても自己表現活動を行うことは可能でしょうか。
187	事前資料を読み次第、お送りいたします。
188	まるごと 初級1 A2 かつどうを使用しています。Can-doを効果的に活用するにはどのような工夫が必要かをお願い致します。
189	初級クラスでの会話希望者と文法希望者に対する導入方法についてご教授ください ボランティアで25年間、つくば国際協会の組織で日本を教えております。
190	90分×20回を半年で教えておりますが、「みんなおにほんご」以外によい本がありましたら教えていただきたいと思ひます
191	「できる日本語 中級」について質問があります。 初級同様、行動目標に即したシラバスで、語彙、文型が分けられていますが、技能的な練習はどのように扱われているのでしょうか。 例えば、「ニュースを聞く」であれば、構成を知る、大意を掴む…という、そのテキストを理解するのに使われる技能などです。
192	総合教科書なので技能練習に特化できませんが、中級というレベルを考え、そうした技能をどこまで考慮されたのか、教えていただきたいと思ひます。
193	質問は別途記入 「コミュニケーション的超克」P19に「コミュニケーション的な言語観をもちそれを実践に展開できる優れた教師が必要である」とありますが、そのような教師の養成・教育はどのようにすれば効果的でしょうか。
194	ICTをどう日本語教育に取り入れられるかについて、何かお考えのことがあったら、お聞きしたいです。
195	八田先生への質問 1. 「まるごと」は海外の日本語教育のため開発されたとのことだが、日本の日本語教室で使用することについてどの様に考えられますか？ 母語が複数のクラスでは母語での説明は出来ず、日本語で説明するのは難しいことがあります。 2. 自分が話したいことを話す能力は向上すると思うが、相手の話を聞いて理解する能力はどうか？ 内容を理解したかどうかの様にしてわかるのか、授業の後、その都度、簡単なテストなどした方が良いでしょうか？
196	別途送信
197	なし
198	嶋田和子先生にお伺ひします。 旧学生の個人的要因について ロールプレイをあまり好まない学生（例えば、内向的な学生や年長の学生、能力が劣る学生など）がいる場合、どのような対処法が考えられるでしょうか。今までの事例等を紹介していただけたいと思ひます。 旧学生の習得の差について どのような教科書を使っても学生間で差が出ると思ひますが、『できる日本語』の場合、学生間でどのような差（例えば、文法能力や会話能力など）が生じやすいでしょうか。 旧試験・評価について 会話の試験をカリキュラムに取り入れる時間がない場合や専門的な知識を持っている教師がいない場合、どのような試験・評価の案が考えられるでしょうか。 旧以前の教科書との比較について 『できる日本語』で勉強した学生と、それが開発されるまでの教科書で勉強した学生では能力の面で何らかの違いは見られたでしょうか。また、『できる日本語』を開発したことで、例えば「能力試験の合格者が増えた」「留学試験の点数が上がった」等の実績があれば、教えていただければと思ひます。 旧教師養成について 一般的な教師養成コースでは日本語学の知識やいかに導入や練習を上手にできるかという技能の教授が中心だと思ひますが、『できる日本語』に基づいた教師養成をする場合、どのような知識や技能がコースの中心になると考えられるでしょうか。 以上5点、色々お聞きして申し訳ありません。 よろしくお願ひいたします。
199	質問は別途記入します
200	漢字圏と非漢字圏での指導方法、設営等の違いについて 今までずっとみんなの日本語を使った日本語学校で勤務しております。最近ではできる日本語をメイン教材に使う学校が増えてきています。できる日本語を使う上で、経験の長い教師がぶつかる問題点があれば、
201	具体的に教えていただけますでしょうか。
202	教日中に改めて質問させていただきます。
203	「みんなの日本語」を教科書として活用しております。1クラス25名ほどの人数で、日本語の能力差がある場合、語彙練習から積み上げ、運用練習等の過程の中でどの段階をどのように組み立て、学習していったらよいかお聞きしたいです。